

社会増減と高齢化率を用いた人口減少リスクの分析 — 神奈川県を対象とした町丁目別の空間分布 —

白川 翔太, 遠藤 玲
芝浦工業大学 土木工学科 都市・地域マネジメント研究室
連絡先: <m509050@shibaura-it.ac.jp >

- (1) **動機:** 我が国では本格的な人口減少社会を迎え、利便性や周辺環境などの条件の悪い地区では、将来的に人口が少なくなると考えられる。これらの地区を予測出来れば、都市に関する施策を行う際の重要な資料になる。それにはどのような地区で人口減少リスクが高いのか、またその要因は何かを検討する必要がある。
- (2) **アプローチ:** 本研究では、転入人口が減少すると新たに定着する人口も減少し、次第に高齢化が進行し、最終的には人口減少が引き起こされるものと仮定した。そしてその仮定より社会増減と高齢化率を用いて人口減少リスクの分析を行った。具体的には、神奈川県を対象に社会増減と高齢化率を用いた指標をそれぞれ作成し、GIS を用いてその空間分布から人口減少リスクの高い地区の検討を行った。その上で、それらの地区に共通する項目について考察した。
- (3) **特徴:** 社会増減の推計を、国勢調査よりコーホー

ト要因法にて5歳年齢階級別・町丁目別という細かい単位で行った。また、年齢はライフステージに応じて5分類し分析した。

- (4) **結果:** 空間分布の結果、神奈川県横浜市南部から横須賀市にかけての地域で非常に高齢化率が高いうえに、総人口も減少傾向であることが明らかになった。さらに、この地域ではあまり転居をしない高齢者が転出しているにも関わらず、他世代がさらに高い割合で転居しているため、高齢者が取り残されるような状態で増加していることも明らかになった。こそのため、この地域は人口減少リスクが高いと言える。この地域の特徴としては開発された年代が古いこと、地形の起伏が激しいことが挙げられる。一方で、開発年代が古く地形の起伏もある鎌倉市では、上記の地区同様に高齢化率は非常に高いが高齢者の転入が多く、人口減少リスクは少ない。このことから地名のイメージの良さも社会増減に影響を与えている可能性が指摘できる。

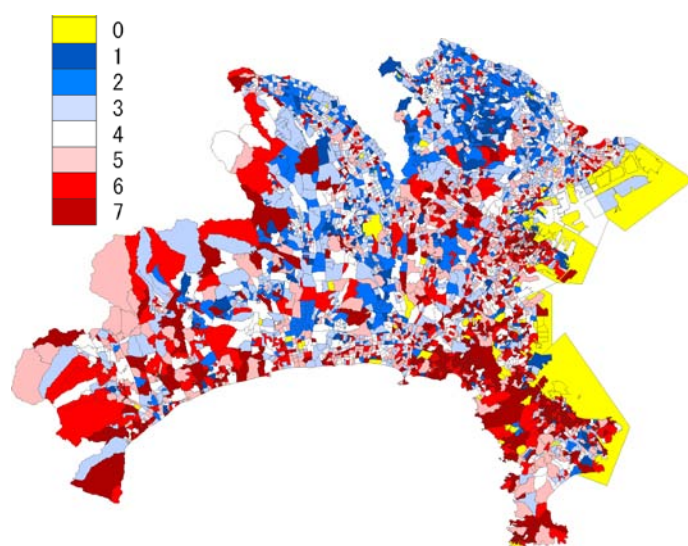


図1: 高齢化率の指標で分類した町丁目
赤いほど高齢化率が高く青いほど低い。白色は全体の平均値とほぼ等しい町丁目を示す。

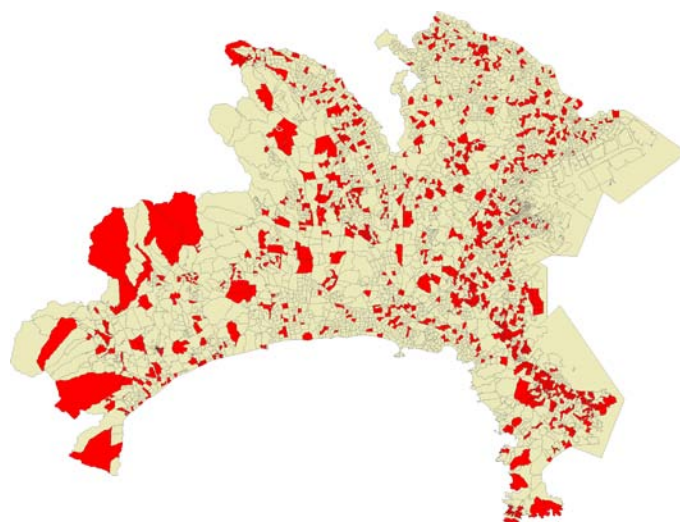


図2: 高齢者が相対的に増加している町丁目
赤色で示した町丁目では、高齢者が転出しているにも関わらず、他世代がさらに高い割合で転居しているため、高齢者が取り残されるような状態で増加している。